

岡山地方史研究

2025.8 166

研究ノート

宇喜多氏の対秀吉従属過程

..... 大 西 泰 正 (1)

幕府天文方と岡山藩について

..... 次 田 元 文 (11)

二〇二四年十一月例会 特別企画「城郭の災害対策を考える」

岡山城と災害 ―石垣修理と洪水被害を中心に―

..... 乗 岡 実 (19)

二〇二四年十一月例会 特別企画「城郭の災害対策を考える」に参加して

..... 川 上 真 奈 (29)

博物館・展覧会めぐり

奈良国立博物館開館130年記念特別展「超国宝 祈りのかがやき」

..... 横 田 明 日 香 (31)

読書日記

近衛篤磨日記刊行会編『近衛篤磨日記』（鹿島研究所出版会、一九六八年）

..... 前 田 昌 義 (33)

編集後記

..... (35)

た。『近衛篤磨日記』から、その様子を見たものが表1である。これは、本誌一六三号の拙稿「明治三十一年三月の衆議院議員選挙をめぐって」でも一部紹介させていただいた。

しかし、その後、馬越恭平（明治三十一年）『當用日記』（東京大学大学院法学政治学研究科付属近代日本法政史料センター原資料部所蔵）があることを知った。これにも、二人の選挙区調整関係の記事があり、それをまとめたものが表2である。このような選挙区調整の様子が、双方の側から分かるのは興味深い貴重な事例ではないかと考えられる。

表1・2で田辺・馬越双方の動きを見ていくと、田辺側では東京の野崎邸の支配人である手島知徳が動いている。また、窪屋郡中島村（現倉敷市）出身で備中松山藩士から東宮侍講などになった野崎家と親しい三島毅も動いている。さらに、前回の選挙で第四区から当選した中国進歩党の守屋此助が動いている。守屋は小田郡大井村（現笠岡市）に生まれ、井原の興讓館から東京法律学校で学び弁護士となる。その後、国会議員となった。のち、実業界に転じ、横浜市に転居する。守屋の進歩党の後継候補として田辺が選挙に出馬する準備をしていたと考えられる。

この表1・2を見て行くと、手島、三島、守屋が動き、田辺と馬越の直接会談などを経て、近衛篤磨が間に入り、馬越が第四区からの出馬をあきらめ、備中北部の第五区に転じることが決まったことが分かる。そして、第五区では野崎家関係者で阿賀郡皆部村（現高梁市）の莊寛一郎が応援することが約されたと考えられる。二月二三日、興讓館第二代館長で当時東京にいた坂田丈平なども出席して、和解の宴会が開かれた。この調整もあり、田辺、馬越ともに当選する。

馬越の後見人は興讓館の縁で坂田丈平、田辺の後見人は三島・莊といった野崎家関係者で、それらがそれぞれ選挙区調整を行った相手の応援をすることで、当選を確かなものとしたと考えられる。

このように、思いがけず手にした『近衛篤磨日記』であるが、当時の岡山県関係の人々の動きを知ることができる大変興味深い書籍である。まだの方には、ご覧になられることをお勧めします。

註 各人物の経歴は、『岡山県歴史人物事典』（山陽新聞社、一九九四）、「むかしの代議士」（『中国新聞』、一九六〇・一〇・二七～一九六一・一一・一八）による。

【付記】史料の閲覧・利用では、前掲原資料部のお世話になりました。

岡山地方史研究・一六六号・二〇二五年八月二十五日

発行・岡山地方史研究会 代表・山本太郎

事務局・岡山市北区伊福町二一六一九 ノートルダム

清心女子大学文学部 久野研究室気付・小野功裕

TEL 〇八六―二五二―二四八二

編集局・岡山大学文学部日本史研究室気付・東野将伸

印刷・友野印刷㈱・岡山市北区高柳西町一―二三

TEL 〇八六―二五五―一一〇一（代）